

インターハイでは男女合わせて5種目に出場。全国から集まったライバル達と激しいレースを展開した。  
左)女子ダブルスカル 右)男子舵手付きクォドルプル



▲ゴールの瞬間、ガッツポーズで優勝を喜ぶ5人



巻頭特集 大きな志と誇りを胸に、未来へ漕ぎ出せ!

# 岡谷南高校漕艇部



昨年8月、男子「舵手付きクォドルプル」で全国優勝という快挙を成し遂げた岡谷南高校漕艇部。2017年の躍進を振り返るとともに、笑顔でひたむきにボートに打ち込む部員達の姿を取材しました。

## 全国優勝を狙える強さの秘訣



濱勝彦 監督

「練習では、生徒が自分で考え行動することも大切。大きな方向性は示しますが、こちらから与え過ぎないようにしています。」

岡谷南高校漕艇部は、オリンピック選手の岩本亜希子さんや世界選手権出場の本井裕介さんを始め、多くの有名選手を輩出してきた歴史ある部です。現在部の指導にあたっている濱監督は、岡谷南高校に着任して4年目。自身も大学時代はボート部に所属し、練習に打ち込みました。教員になった後、下諏訪中学校や諏訪清陵高校でボート部の指導にあたり大会で実績を残してきた監督は、岡谷南高校漕艇部について、「生徒達はとても素直で、練習に対してとにかく「ひたむき」と話します。一方、部員から見た監督は「フレンドリーで話しやすい」「監督らしくない監督」だとか。取材の中でも、笑いが絶えず、部員と監督の強い信頼関係が伺えました。

漕艇部の練習は、主に早朝。学校がある平日は朝6時半に諏訪湖畔の漕艇場に集合し、トレーニングに励んでいます。諏訪湖が凍ってしまう冬季は、長距離をゆつ

## 25年ぶりの快挙！ 笑顔で臨んだ インターハイ

濱勝彦監督率いる岡谷南高校漕艇部は、現在3年生11人、2年生19人、1年生18人の計48人で活動しています。漕艇部が一躍注目を浴びたのは、昨年8月に宮城県で行われた全国高校総合体育大会（通称インターハイ）。ボートの部で行われた6種目のうち、なんと5種目に岡谷南高校が出場し、「舵手付きクォドルプル」の種目では見事全国優勝を果たしました。5人乗りのボートを漕ぐこの種目、今回栄冠を掴んだのは、3年生の手塚君、小林君、牛山君、伏見君、2年生の小林君の5人です。日頃から、苦しい練習ほど笑顔で取り組む事を心掛けていたという漕艇部部長の手塚君は、大会当日について「決勝のレーンに入った時、他校のクルーは緊張していても静かだった。自分達はみんな笑顔だったので、周りからは変に思われたかもしれないが、自然体で楽しく漕ぐ事が出来た」と振り返ります。

春の全国選抜出場を逃した悔しさを胸に、後がないと臨んだインターハイ。直前の北信越大会で福井の強豪校に勝つなど好調だった5人は、優勝を目標に掲げて練習に励んだと言います。全国から強豪が集う中、決勝ではレース後半で力を発揮し、失速する他校を抜き去り快勝。岡谷南高校の強さを見せつけました。

くりと走る練習や筋トレなどの陸上トレーニングで基礎体力を強化。岡谷南高校の持ち味であるレース後半の持久力は、こうした日々の練習によって培われていることが分かります。監督が常に意識しているのが練習の「質」。全国レベルの他校と比べて決して練習量は多くないが、6時半の開始を厳守し、限られた時間の中で効率よくメニューをこなす、その地道な積み重ねが全国大会で優勝を狙えるまでになった強さの秘訣だと言います。また、「人にやらされる練習は本物ではない」と放課後の練習メニューは生徒達に一任。真面目な生徒達は、どんな練習をすれば勝てるかを皆で考え、ついキツ過ぎるメニューを作ってしまうのだとか。インターハイに出場した卒業生の姿も、練習に向かう原動力の一つになっていたようです。

優勝した5人について監督は「チーム

長野県勢のボートの団体種目における全国優勝は25年ぶりの快挙とあって、優勝直後は各メディアの取材が集中したそうです。当時の周囲の反応について、「昨年インターハイで3位になった時も反響があったが、優勝となると扱いが全然違います」と笑顔で語ってくれました。

3年生全員が出場できたと言う事もあり、想い出深い大会となったインターハイ。全国各地で行われる大会には選手の家が毎回応援に来てくれるそうで、そうした声援も選手の励みになっていたと言います。



「舵手付きクォドルプル」で優勝を果たした選手5人と監督。

## ボートを通して たくましい人間に

今後の目標は、という問いに「ボートを通して何を学ぶのか、と言うのが漕艇部のテーマ。勝ち負けだけにこだわるのではなく、人として学び、大きく成長してほしい」と話してくれた濱監督。過去には部員が減少した漕艇部でしたが、現在は先輩達が作ってくれた良い雰囲気を引き継ぎ、活気に溢れていると言います。今後は、3月に行われる全国選抜に男女「舵手付きクォドルプル」の2チームが出場予定。先輩達のひたむきで前向きな姿勢は、オールを引き継いだ後輩達の中につかりと息づいています。

**手塚 知丹さん (3年・部長)**  
「ボートを楽しむ事が一番辛いと思いき、自ら声を出したりして、キツイ練習を笑顔で楽しめるように皆で工夫しました。そのお陰で、インターハイでも自然な雰囲気です。」

**小林 駿斗さん (3年)**  
「ボートは辛い事がほとんどだけど、練習で自分をすごく追い込んだ後の爽快感は気持ちがいい。休日の練習終わりに、ご褒美に仲間とラーメンを食べたりします。」

**牛山 啓さん (3年)**  
「インターハイ1週間前は、練習面はもちろん、自分が直すべき課題が沢山あり精神的にも辛かった。でもあの苦しさは優勝するためにあったんだと思います。」

**伏見 京悟さん (3年)**  
「水上競技である漕艇の醍醐味は、遠征。自由時間に観光地に行ったり美味しいものを食べるのが楽しみで、インターハイでは仙台の牛タンを食べました。」

**小林 怜矢さん (2年)**  
「コックスとして昨年の春からチームに参加し、時に厳しく指導してもらいました。今年も、昨年のインターハイ優勝に負けたくない結果を残したいです。」

### 【SCHOOL DATE】

岡谷南高等学校 所在地: 岡谷市湖畔3-3-30 TEL.0266-23-2355  
今後の大会: 全国高等学校選抜ボート大会(浜松市)/3月23日(金)~25日(日) 男子・女子「舵手付きクォドルプル」出場予定

### 「舵手付きクォドルプル」とは?

「舵手」はコックス(Cox)＝舵取りのこと。舵手付きクォドルプルでは、1人2本のオールを持った漕ぎ手4人にCoxを加えた計5人がボートに乗る。1人2本のオールを使用するものをダブルスカルといい、他に、2人で漕ぐダブルスカルや1人で漕ぐシングルスカルなどがある。